

○荒川駒形神社例大祭

附馬牛町に鎮座する荒川駒形神社は、家畜の安泰と五穀豊穡の神様を祀っており、かつては大勢の馬を連れた参詣人が集まり、とても賑わったといわれています。現在も毎年5月の例大祭日は厳かに神事が執り行われます。



例大祭の日に公開される荒川駒形神社の千匹絵馬

遠野馬通信

馬産地遠野とホースマンを結ぶ
情報誌

No.90

2024年5月1日

○厳かな神事

荒川駒形神社は、鎌倉時代に遠野郷を領有した阿曾沼氏が蒼前駒形明神を馬の神として祀ったのが始まりといわれ、御神坂から神社前の広場にかけて阿曾沼氏の御料牧場だったと伝わります。祭禮日は旧1月16日と旧4月8日で、参詣の帰りに笹をオミダラセ（手洗鉢）に浸して馬に食べさせると病気になるまいといわれました（遠野市立博物館発行「馬とくらし」より）。現在の例大祭は、畜産関係者が参列する中、神様の御霊が移された金幣を背にした神馬が元宮（元駒形神社が鎮座した場所）を参詣、その後本殿で例祭が行われ、早池峰しし踊りが奉納されます。今年2024年の例大祭は5月15日です。

(写真右：駒形神社境内に流れる湧水)



例大祭の日の荒川駒形神社幣殿



一頭一頭の馬にお祓い



早池峰しし踊り奉納



御霊を背にした神馬とともに元宮へ



元宮へ続く新緑の小路



元宮における神事